

業務用米の多収穫・低コスト生産の推進について
～県内でモデル経営体の実践が始まります～

県では、需要に応じた米生産による新潟米のブランド化を図るため、需要が拡大している内外業務用米の生産拡大を図ることとしています。業務用米は価格が比較的lowめに設定されることから、多収穫・低コスト生産による所得確保が重要となります。

このため、普及指導センターでは多収穫・低コスト生産を実践するモデル経営体を育成して、県内での波及を図ることとしています。

今回は、モデル経営体の取組計画について紹介します。

1 モデル経営体の概要

法人を中心に24モデル経営体を設置します。

経営体の作付面積の平均は47haで、うち業務用米の割合は1割程度です。

表1 モデル経営体の概況

経営体数	うち法人	作付面積 (ha)	
		経営全体	うち業務用米
24	21	47.1	5.6

2 モデル経営体の取組品種と目標収量

多収穫には品種選定が重要です。モデル経営体では、多収性品種の「あきだわら」「つきあかり」「ゆきん子舞」を選定しています。

目標収量は、3品種のうち「あきだわら」が最も高い設定となっています。

表2 モデル経営体の取組品種と目標収量 (単位: kg/10a)

品種名	経営体数	目標とする収量の平均		
		H30年	H31年	H32年
あきだわら	10	674 (600~700)	689 (630~720)	698 (660~720)
つきあかり	9	648 (600~720)	664 (630~700)	680 (630~720)
ゆきん子舞	5	636 (600~660)	674 (630~720)	696 (660~720)

※ () 内は、最小値～最大値の幅



3 生産コストの目標

目標とする生産コストは、日本再興戦略の農業分野の成果目標となっている資本利子・地代全額算入生産費約9,600円(60kg当たり)としています。

概ね半分の経営体で、1年目での達成を目標としています。

表3 モデル経営体での生産コストの目標 (単位：円/60kg)

品種名	実績	目標とする生産費の平均			目標を達成する経営体数		
	H29年	H30年	H31年	H32年	H30年	H31年	H32年
あきだわら	11,642	9,544	9,291	9,101	11	16	24
つきあかり	13,796	9,987	9,591	9,358			
ゆきん子舞	—	10,703	9,934	9,546			

4 低コスト技術の取組

コスト低減には低コスト技術の活用とともに、目標とする収量や品質をきちんと確保することがポイントとなります。

モデル経営体でも全量基肥肥料や密播育苗など低コスト技術を活用してコスト低減に取り組みます。

表4 モデル経営体が取り組む主な低コスト技術

低コスト技術	全量 基肥肥料	密播育苗	水口 流入施肥	ドローン での防除
取組経営体数	15	10	6	3



図1 密播（左）と標準播（右）



図2 流入施肥の様子

今後も多収穫・低コスト生産の推進に関する情報をタイムリーに提供しますので、ご覧ください。

【経営普及課 農業革新支援担当 遠山哲史】